

水稻・トビイロウンカに注意！

- ・大阪府内の複数の水田で、トビイロウンカによる坪枯れの発生が確認されました。
- ・トビイロウンカは、西日本を中心に広範囲で多発しています。
- ・向こう1か月の気温は平年に比べ高いと予想されていますので、被害の拡大が心配されます。

○トビイロウンカ

- ・成虫は4～5mmで、体色は脂ぎった褐色。
- ・成虫は長翅型（図1）と短翅型があり、長翅型が梅雨時期に大陸から飛来し、主に短翅型が増殖する。
- ・成虫と幼虫が株元で吸汁加害して急激に増殖し、多発すると秋に坪枯れを生じさせる（図2）。



図1 トビイロウンカ長翅型成虫



図2 坪枯れ

○防除方法

- ・トビイロウンカは水田内で局所的に発生するため、水田内を広く見回る。
- ・特に出穂後の防除を行っていない水田では、発生に注意する。
- ・落水は坪枯れの発生を助長するので、発生ほ場では早期落水を避け、適期落水に努める。
- ・収穫適期の範囲内で早めに収穫する。
- ・多発ほ場では使用時期（収穫前日数）に注意して、表1の薬剤をすみやかに散布する。
- ・散布時は株元まで十分に薬剤が行き渡るように注意する。

表1 主な防除薬剤

薬剤名	系統(IRAC)	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
スタークル粒剤 ※1 アルバリン粒剤 ※1	ネオニコチノイド系 (4A)	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内
トレボン粒剤 ※1	ピレスロイド系 (3(A))	2～3kg/10a	収穫21日前まで	3回以内
スタークル豆つぶ ※1	ネオニコチノイド系 (4A)	250g～500g/10a	収穫7日前まで	3回以内
なげこみトレボン ※1, 2	ピレスロイド系 (3(A))	水溶性容器 10 個 (500mL)/10a	収穫21日前まで	3回以内
スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系 (4A)	3,000倍	収穫7日前まで	3回以内
トレボン乳剤	ピレスロイド系 (3(A))	1,000～2,000 倍	収穫14日前まで	3回以内

※1) 粒剤、豆つぶ剤、なげこみ剤は湛水状態で使用し、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。

※2) なげこみ剤は、藻類やウキクサが多発している水田では、薬剤の拡散が妨げられるので使用しない。

●Web 版大阪府病害虫防除指針 (<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農林水産消費安全技術センター 農薬登録情報提供システム (http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)